

能力だけで**文理選択**をしないために 『ジブラボ』の判定結果を活用

東京都立 江北高等学校

東京都立江北高等学校は、今年創立80周年を迎える全日制普通科(定時制課程を併置)の男女共学校です。「文武両道」を校是とし、都の「進学指導推進校」の指定を受ける一方で、9割の生徒が部活動に所属し、都内でも上位で活躍する部もあります。1学年8クラス編成で、内2クラスは国公立大学や難関私立大学への現役合格を目指す「特進クラス」となっています。大手予備校の授業が端末で視聴できるシステムの導入や、自主学習室の設置、大学模擬授業の実施等、進学のためのさまざまな学習支援を行う同校では、文理選択指導をどのように行っているのか——2学年主任の熊川隆一先生に、文理選択指導の際に実施された『文理選択適性検査ジブラボ』のご活用状況についてお聞きしました。



第2学年主任
熊川 隆一先生

1年1学期に『ジブラボ』を実施 2学期の文理選択の材料に

—最近の生徒たちの進路意識はいかがでしょうか？

本校ではほぼ全員が進学しますが、入学時には、知識が再現可能なものとして定着していない生徒が目立ちます。知識をインプットした上で、場面に応じてアウトプットすることが、大学入試でも、社会に出てからも必要になりますが、そこまで身につけていない生徒が多く、その結果、当初の第一志望の進学が達成できないという事例が少なくありません。まずは、そのあたりの意識改革が指導のカギとなります。

—文理選択指導は、どのような流れで行われますか？

本校では、2年次から文理にコースが分かれます。そのため、1年次の秋に文理選択調査を行い、コースを決定します。文理選択に向けての指導は、入学してすぐに行う、新入生全員参加の一泊二日の合宿から始まります。合宿の内容は、学習に関するオリエンテーションです。高校で課せられる学習の量と質について、始めにしっかりと頭に定

着させることが目的です。

その後、1年次1学期には個人面談、進路適性検査、進路講演会等を実施します。さらに夏休みに入ると、「特進クラス」と希望者を対象に夏期特別講習を開き、3日間勉強漬けの時間を過ごします。

1年次2学期には難関大学見学会等も開きます。これまでの指導で、学力養成はもちろん、自分の適性をしっかりと把握させ、さらに、上級学校についての知識を身につけさせます。その上で、再度、担任と個人面談を行なって方向性を確認し、文理選択調査に臨むという流れになります。

—『文理選択適性検査ジブラボ』採択の経緯と目的をお教え下さい。

本校では、基本的に途中から文転、理転はできません。そのため1年次2学期に行なわれる文理選択調査までにしっかりと進路を定めておく必要があります。しかしながら、1年次の半ばの段階では、大学に進んで具体的にどのような学問に取り組みたいかなど、なかなかイメージできないのが現実です。そこで、少しでも文理選択の参考になる判断材料を用意してあげようという意図から、『文理選択適性検査ジブラボ』の採択にいたしました。

▲『文理解選適性検査ジブラボ』〈生徒用〉アドバイスシート(見本)

『ジブラボ』は、何年生を対象に、いつ頃実施されましたか？

1年生全員を対象に、6月から7月にかけてクラスごとに実施しました。
2学期に行なう文理解選調査に照準を合わせて、その前に設定した10月の個人面談時に判定結果を返却し、生徒の適性とコース希望を話し合いました。

判定結果を材料に、
しっかりと自分を見つめ直す

『ジブラボ』実施後の生徒側、教師側の反応・効果はいかがでしたか？

返却される判定結果「生徒用 アドバイスシート」はカラフルで見やすいです。学問の文理解選だけでなく、職業適性まで判定される点に興味をひきました。特に、自分では考えていなかった分野に高い適性が出ていた時には、生徒も教師も盛り上がりました。
文理解選が本人の希望と違うケースもありました。もちろん、検査の判定がすべてではないことはしっかり指導しますし、意外に気にしていない生徒も多かったです。しかし、一方で、まだ自分のことがよくわかっていない生徒もいます。面談時には、この判定結果をもとに文理解選について話し合いますが、特に自分の希望と結果が違った生徒

に対しては、「もう一回、判定結果と自分にしっかり向き合って、自分の将来の希望、そのために進む2年次の文理解選を考えてみてごらん。この判定シートを家族の方にも見せて、話し合ってみてください」とアドバイスします。
能力一辺倒で文理解選コースを決定すると、生徒の進路をつぶしてしまうことにもなりかねません。『ジブラボ』の実施は、単純な希望だけで簡単に進路を決めさせることなく、立ち止まってしっかり自分自身と自分の可能性を見つめさせるよい機会であると考えます。

生徒と保護者の信頼も厚い
「復活戦ができる」指導を展開

最後に、御校の進路指導の特色についてお教え下さい。

本校では、第一志望の進学実現に向けて、2年次以降もさまざまな学習支援に取り組んでいます。例えば自主学習室として、週3日、夜7時まで教室を開放しています。そこには卒業生などの大学院生が来て、勉強を教えてくれたり、進学に向けアドバイスをしてくれたりします。
江北高校は、たとえ中学で勉強が遅れても、復活戦ができ、進路・進学実現ができる学校であると自負しています。そのためメニューを揃えているので、「十分活用すれば、希望の進路実現=大学合格は叶う」、ということが、生徒にも保護者にも根付いてきていると感じております。